

佐久市埋藏文化財調査報告書 第194集

# 番屋前遺跡群 番屋前遺跡Ⅳ

長野県佐久市猿久保番屋前遺跡Ⅳ発掘調査報告書

2011. 3

佐久浅間農業協同組合  
佐久市教育委員会

## 例 言

1. 本書は佐久浅間農業協同組合によるJA佐久浅間本所建設工事に伴う番屋前遺跡群番屋前遺跡Ⅳの発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 佐久市猿久保882 佐久浅間農業協同組合
3. 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長
4. 遺跡名及び発掘所在地 番屋前遺跡群 番屋前遺跡Ⅳ(SBYMIV)  
佐久市猿久保882-1の一部
5. 発掘担当者 現場・整理作業 出澤 力
6. 本書の編集・執筆は出澤が行った。
7. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

1. 遺構の略称は以下の通りである。  
T-a-竪穴状遺構 F-掘建柱建物址 D-土坑 P-ピット M-溝状遺構
2. スクリーントーン表示は以下の通りである。

遺構 地山断面



3. 押図の縮尺は以下の通りである。  
遺 構 竪穴状遺構・掘建柱建物址・土坑・井戸跡・柱列・溝状遺構 1/80  
遺 物 陶器1/2 鉄製品1/3 石製品1/3・1/6 古銭1/1
4. 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
5. 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水系高を標高とした。
6. 土層は「新版 標準土色帖」による。
7. 調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。

## 目 次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 立地と経過	1
第2節 調査体制	2
第Ⅱ章 遺跡の環境	2
第1節 自然環境	2
第2節 周辺遺跡	3
第3節 基本層序	5
第Ⅲ章 遺構と遺物	6
第1節 竪穴状遺構	6
第2節 掘建柱建物址	8
第3節 土坑	11
第4節 井戸跡	14
第5節 柱列	15
第6節 溝状遺構	17
第7節 遺構外遺物	18



## 第I章 発掘調査の経緯

### 第1節 立地と経過

番屋前遺跡は北から南流してきた湯川が、岩村田市街地の南方を回り込むように流れを西方に変える左岸第2段丘上の緩やかな南向きに傾斜する台地上に展開する。標高は694m内外を測る。周辺遺跡の状況は、湯川に近い台地には多くの遺跡が所在し、特に台地の縁辺部に近づくほど、遺構の密度が濃くなる傾向が認められ、発掘調査も数多く行われている。近年の調査としては、今回調査区の北東で平成20年に野馬塚遺跡の調査が行われ、平安時代の竪穴住居址、中世の竪穴建物址、掘建柱建物址、土坑、ピット等が発見された。また、番屋前遺跡群内では平成10年に調査区東に隣接する番屋前遺跡Ⅲの調査によって、中世の竪穴遺構・土坑・溝状遺構・柱穴及び陶磁器等の遺物が発見されている。

今回、佐久浅間農業協同組合によるJA佐久浅間本所建設工事が行われることとなり、平成21年に試掘調査を行った。その結果、中世と考えられる遺跡が発見されたことから、建物建設により遺構の破壊が予測される地域の発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり、遺跡の記録保存を目的として実施した。



番屋前遺跡Ⅳ位置図(1:50,000)

## 第2節 調査体制

平成21年度

調査受託者 佐久市教育委員会 教育長 木内 清（4～5月） 土屋 盛夫（5月～）

事務局 社会教育部長 内藤孝徳（4～6月） 工藤秀康（7月～）

社会教育部次長 金澤英人（4～6月）

文化財課長 森角吉晴

文化財調査係長 三石宗一

文化財調査係専門員 林幸彦

文化財調査係 並木節子 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也

富沢一明 神津 格（4～9月） 上原学

井出泰章（10月～） 出澤力

調査主任 佐々木宗昭 森泉かよ子

調査担当者 出澤 力

調査員 土屋武士 日向昭次 安藤孝司 渡辺学 中嶋フクジ

渡邊久美子 岡村千代美 小林百合子 細萱ミスズ

小井戸秀元 菊池喜重 浅沼ノブ江

平成22年度

調査受託者 佐久市教育委員会 教育長 土屋 盛夫

事務局 社会教育部長 工藤秀康

文化財課長 森角吉晴

文化財調査係長 三石宗一

文化財調査係専門員 林幸彦 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也

文化財調査係 並木節子 富沢一明 上原学 井出泰章

出澤力

調査主任 佐々木宗昭 森泉かよ子

調査担当者 出澤 力

調査員 岡村千代美 小林百合子 小林妙子 橋詰信子 井出孝子

林まゆみ 柏木義雄 白田猛 澤井知春 清水澄雄 羽毛田利明

細萱ミスズ 渡邊久美子 小幡弘子

## 第II章 遺跡の環境

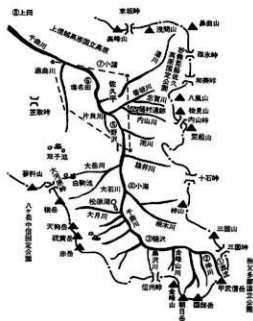
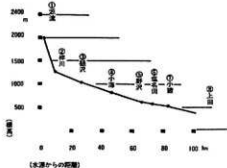
### 第1節 自然環境

佐久地域は、周辺を山地及び台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれている。北には現在も噴煙を立ち上らせる浅間山が聳え、南には蓼科火山が東西に連なる。東は関東山地が南北方向に連なり、群馬県との境をなしている。西には御牧原・八重原といった台地が広がり蓼科火山群北端の裾野に接している。佐久平水系の代表は千曲川で、源は南方の川上谷に発し、南佐久から北流し、沢筋の支流を集めつつ水量を増し佐久平に注ぎ込む。その後、やや北西に流れを変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の東麓に源を究す湯川、東の関東山地からの田子川、志賀川といった支流を集めた滑津川などと合流し、西方の御牧ヶ原台地急崖にそって長野方面へと貫流する。

このように佐久地域は周囲を山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地が広がっており、佐久平と呼ばれているが、地質学的に見ると南北に大きく二分することができる。この境は佐久平のほぼ中央である東から流れる志賀川が滑津川と合流し、千曲川に注ぐ東西線を境として河川の北側は標高680m、南は660mを測り、20m内外の比高差が存在する。北部地域は、北に聳える浅間山の山麓末端部の南に向かって緩やかに傾斜する台地で、浅間山の噴火によって台地に堆積した火砕流及び降下火山灰で形成されている。この台地は雨水の浸食に弱く、浅間の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り）を形成し、切り立った断崖により台地をおよそ南北方向に細長く分断している。これに対し、南部地域は千曲川の氾濫源沖積地及び滑津川など支流の谷口扇状地で形成され、地表下は河床礫層と沖積粘土層

地帯となっている。

調査対象となった番屋前遺跡群番屋前遺跡Ⅳは、佐久市北部地域の南部に位置し、猿久保地籍の湯川左岸に広がるやや南方向に傾斜する段丘上に展開する。標高は694m内外を測る。



千曲川概念図

報告書1985 「種村遺跡Ⅱ、遺跡の環境」

## 第2節 周辺遺跡



周辺遺跡分布図 (1:25,000)

番屋前遺跡群番屋前遺跡Ⅳの周辺には、弥生時代から中世にかけての遺跡や遺跡群が点在している。番屋前遺跡群は平成8年に2箇所が調査され、土坑・溝状遺構・柱穴が発見され、遺物は縄文土器片・石鏃・中近世の陶磁器・石器などが出土している。また、平成10年に農業協同組合による店舗建設に伴う、番屋前遺跡Ⅲの調査が行われ、中世の堅穴遺構・土坑・溝状遺構等が発見され、縄文時代の石器、中世の鉄製品・石製品等が出土している。

番号	遺跡名	時代	所在地	備考
1	番屋前遺跡Ⅳ	中世	猿久保	今回調査
2	番屋前遺跡群	奈良～中世	中込・猿久保	番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ(H8)、番屋前遺跡Ⅲ(H10)
3	金比羅古墳	古墳	猿久保	
4	御経塚古墳	古墳	猿久保	
5	西妻神遺跡	弥生・平安	中込	
6	中原遺跡群	縄文～中世	中込・横和地	梨の木遺跡(S62・63、I18・9)
7	宮の上遺跡群	縄文～中世	横和・根々井	高根遺跡(S50)、宮の上遺跡(S62・63)根々井芝宮遺跡(H4)、割地遺跡(I19)
8	寺畑遺跡群	縄文～平安	根々井・猿久保	寺畑遺跡(H7)
9	猿久保屋敷跡遺跡	弥生～平安	猿久保	
10	中鳴澤遺跡群	弥生～平安	岩村田	中鳴澤遺跡(H7)
11	中西の久保遺跡群	弥生～平安	岩村田	中西の久保遺跡(H7～9)
12	北西の久保遺跡 北西の久保古墳群	弥生～中世 古墳	岩村田	北西の久保遺跡(S57・60) 北西の久保古墳群(S57・60)
13	岩村田遺跡群	弥生～中世	岩村田	東一本柳遺跡(S43・H21・22)、北一本柳遺跡(S47、I15・19・18)、東大門遺跡(H1・21)、西一本柳遺跡Ⅰ～ⅩⅧ(H4～)、柳堂遺跡Ⅱ(H118)等
14	上の城遺跡群	縄文～中世	岩村田	上の城遺跡(S43、H14)、上の城丹湯遺跡(S54)、西八日町遺跡(S58)、西八日町遺跡Ⅳ・Ⅴ(H19・20・21)、観音堂遺跡(I19)等
15	藤ヶ城跡	近世	岩村田	
16	下信濃石遺跡	平安～中世	岩村田	下信濃石遺跡(H16)
17	岩井堂遺跡	弥生～平安	岩村田	
18	蛇塚A遺跡	平安	安原	
19	藍久保遺跡群	平安	安原	
20	戸屋敷遺跡群	平安	安原・下平尾	
21	尚畑遺跡群	縄文～平安	安原・新子田	田畑遺跡(H1)
22	戸板遺跡群	弥生～中世	新子田	戸板遺跡(S46)
23	家之前遺跡	弥生～平安	新子田	
24	島坂城跡	中世	新子田	
25	高師町遺跡群	平安～中世	新子田	高師町遺跡(S61・H7)
26	東内池遺跡	平安～中世	新子田	東内池遺跡(S60)
27	蛇塚B遺跡	平安	新子田	蛇塚B遺跡(S54・58、I16)、野馬久保遺跡(H2・9)
28	野馬塚古墳	古墳	猿久保	
29	野馬塚遺跡群	弥生～平安	猿久保	野馬塚遺跡(S56)、野馬塚遺跡Ⅱ・Ⅲ(H20)
30	馬瀬口遺跡群	弥生・平安	瀬戸・新子田	
31	小池遺跡	弥生～平安	新子田	
32	和田上遺跡群	縄文～平安	瀬戸・新子田	和田上南遺跡(S54)
33	和田上古墳	古墳	瀬戸	
34	和田遺跡	縄文～平安	瀬戸	

35	寄山遺跡群	縄文～中世	瀬戸・志賀	勝負沢遺跡 (H12～4)、寄山遺跡 (H2～4)、寄山古墳群 (H3・4)
36	中条半城跡	中世	瀬戸	中条半遺跡 (H1・2)
37	中条半古墳群	古墳	瀬戸	3基跡
38	中条半遺跡	縄文～中世	瀬戸	中条半遺跡 (H1・2)
39	大日山古墳	古墳	瀬戸	
40	長峯遺跡	縄文	瀬戸	
41	宮の脇遺跡	縄文～平安	瀬戸	
42	南海遺跡群	古墳～平安	瀬戸	
43	城山城跡	中世	瀬戸	
44	中反遺跡群	平安	瀬戸	
45	鳥の宮遺跡	古墳・平安	瀬戸	古墳2基宅地造成により消滅
46	深堀遺跡群	縄文～中世	瀬戸	深堀遺跡 (S40)、瀬戸原遺跡 (H10・11)、深堀Ⅲ (H11・12) 等
47	八反田城跡	中世	瀬戸	
48	八反田遺跡	平安	瀬戸	
49	瀬戸狐塚古墳群	古墳	瀬戸	2基跡
50	東千石平遺跡群	古墳～中世	瀬戸	
51	深堀城跡	中世	中込	
52	大塚遺跡群	弥生・平安	中込	
53	中込大塚古墳	古墳	中込	中込大塚古墳 (S43)
54	蟹ヶ沢古墳	古墳	中込	
55	富士塚古墳	古墳	袋久保	
56	黒敷古墳群	古墳	瀬戸	3基跡

周辺遺跡一覧表

### 第3節 基本層序

番屋前遺跡群番屋前遺跡Ⅳの位置する地域の、標高は694m内外を測り、全体が北方から南方にかけて緩やかに傾斜する。

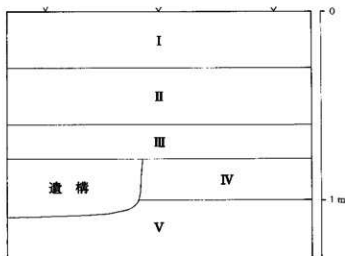
第Ⅰ層は埋土による整地層の攪乱層で、黒褐色土を呈す。全面的に整地による不整合が認められる。

第Ⅱ層は5mmから1cm大の軽石を多く含む暗褐色土である。

第Ⅲ層はⅡ層同様5mmから1cm大の軽石を多く含み、一部に下層の地山ロームを含む暗褐色土である。(漸移層)

第Ⅳ層は軽石・小礫等を含む褐色のやや砂じりのロームである。遺構検出はこの第Ⅳ層上面で行った。

第Ⅴ層は褐色土の砂礫層である。



基本層序模式図



### 第三章 遺構と遺物

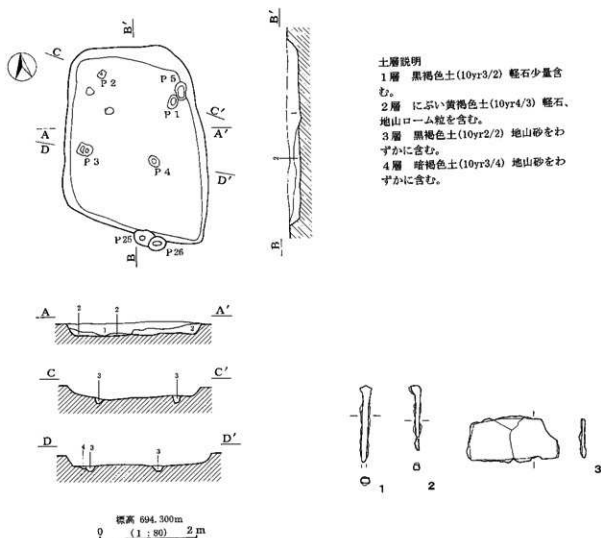
#### 第1節 竪穴状遺構 (Ta)

##### Ta1号竪穴状遺構

遺構は調査区東端のやや北側、え-2グリッド付近に位置する。遺構の規模は西壁3.6m、東壁4.0m、北壁2.2m、南壁2.8m、深さは25cm内外を測る。平面形態はやや不整な南北方向に長い長方形である。遺構の埋まった状況を示す覆土は2層で、南側及び東西方向から埋まり始めた状況が窺える。底面はほぼ平坦だが貼床状の硬質面はほとんど認められない。ピットは底面にて5個発見された。規模は直径20~40cm、深さは30cm内外を測る。

遺物は鉄製品が3点出土した。1・2は角釘で、3は板状鉄製品である。3の板状鉄製品については正確な用途は判別できなかった。

時期については、周辺の遺跡状況及び遺構の形状、出土遺物から中世(鎌倉・室町)としたい。



Ta1号竪穴状遺構実測図

番号	器種	器形	長さcm	幅cm	厚さcm	備考
1	鉄製品	角釘	6.05	1.06	0.77	断面方形、先端部欠損、重量 8.24 g
2	鉄製品	角釘	[4.61]	1	0.54	断面方形、先端部欠損、重量 3.26 g
3	鉄製品	板状不明品	3.58	7.34	0.4	全体的に薄く両端部欠損、重量 19.38 g

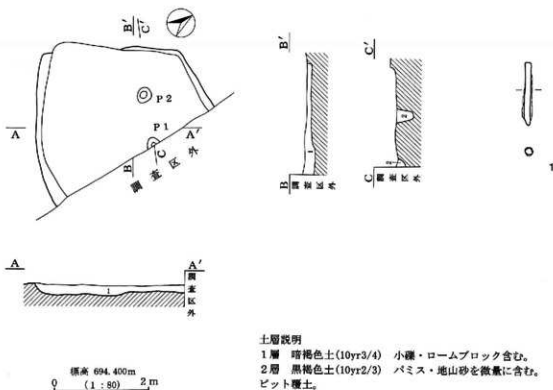
Ta1号竪穴状遺構遺物観察表

Ta2号竪穴状遺構

遺構は調査区北東端付近、いー2グリッド付近に位置し、遺構の東側一部は調査区域外となる。規模は西壁3.0m、北壁は調査規模で1.4m、南壁は調査規模で3.4m、深さは15~20cmを測る。埋土状況を示す覆土はロームブロック、細かい礫を含む暗褐色土1層が認められたが、遺構は浅く、土層から埋まった状況の詳細を確認するには至らなかった。

遺物は棒状の鉄製品が1点出土した。

時期については、周辺の遺跡状況及び遺構の形状、出土した遺物から中世（鎌倉・室町）としたい。



Ta2号竪穴状遺構実測図

番号	器種	器形	長さcm	幅cm	厚さcm	調整	備考
1	鉄製品	棒状鉄製品	5.85	0.75	0.84	頭部欠損	重量 7.98 g

Ta2号出土遺物観察表

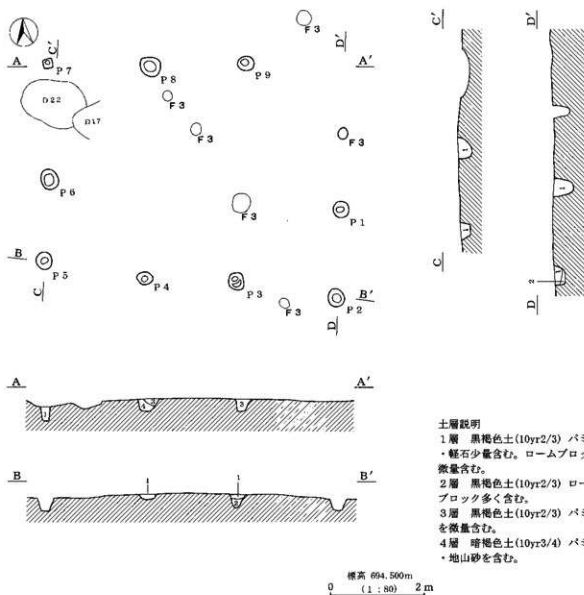
## 第2節 掘建柱建物址 (F)

### F 1号掘建柱建物址

遺構は調査区西側の南、き-10グリッド付近に位置する。発見されたピットは9個で、配置状況から東西3間、南北2間の制柱である可能性が窺えるが、攪乱等によって北東に存在が予測されるピット2個が未発見であることから、推測となる。ピットの規模はP 1-直径36cm、深さ40cm、P 2-直径40cm、深さ28cm、P 3-直径36cm、深さ28cm、P 4-直径32cm、深さ15cm、P 5-直径40cm、深さ32cm、P 6-直径44cm、深さ33cm、P 7-直径20cm、深さ15cm、P 8-直径43cm、深さ27cm、P 9-直径28cm、深さ26cmを測る。ピットの覆土は若干の違いは認められるが、地山に含まれるローム粒・ブロック、パミス、軽石等を含む黒褐色土または暗褐色土である。

本遺構からの遺物の出土は認められなかった。

時期については、周辺の遺構・遺物の状況から中世（鎌倉・室町）としたい。



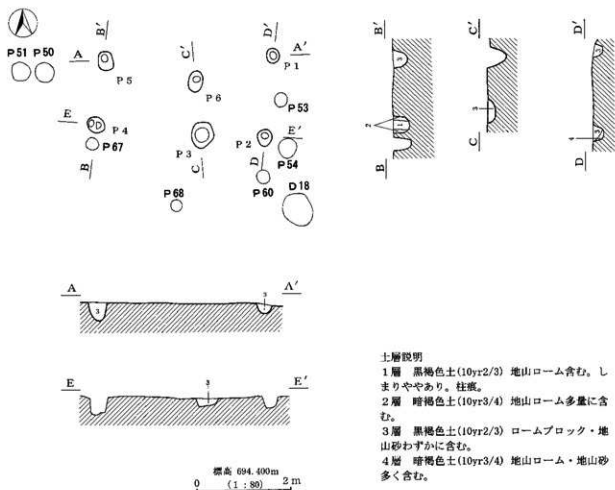
F 1号掘建柱建物址実測図

## F 2号掘建柱建物址

遺構は調査区西側の南、か-9グリッド付近に位置する。遺構の存在する周辺は、調査区域内の中でも、土坑、ピットなどの遺構が密集する地域の中にあたる。確認されたピットは6個で小型の側柱にも考えられるが、P 6の位置が若干ずれることから、攪乱に破壊された北側にさらに規模が拡大していた可能性も考えられる。北側にさらに規模が拡大し、P 6が本遺構に伴う状況であるとなると東西2間、南北2間以上の総柱の掘建柱建物址になると思われる。ピットの規模はP 1-直径32cm、深さ20cm、P 2-直径36cm、深さ21cm、P 3-直径54cm、深さ18cm、P 4-直径36cm、深さ37cm、P 5-直径40cm、深さ35cm、P 6-直径44cm、深さ25cmを測る。ピットの覆土は若干の違いは認められるが、地山に含まれるローム粒・ブロック、バミス、軽石、砂等を含む黒褐色土または暗褐色土である。

本遺構からの遺物の出土は認められなかった。

時期については、周辺の遺構・遺物の状況から中世（鎌倉・室町）としたい。



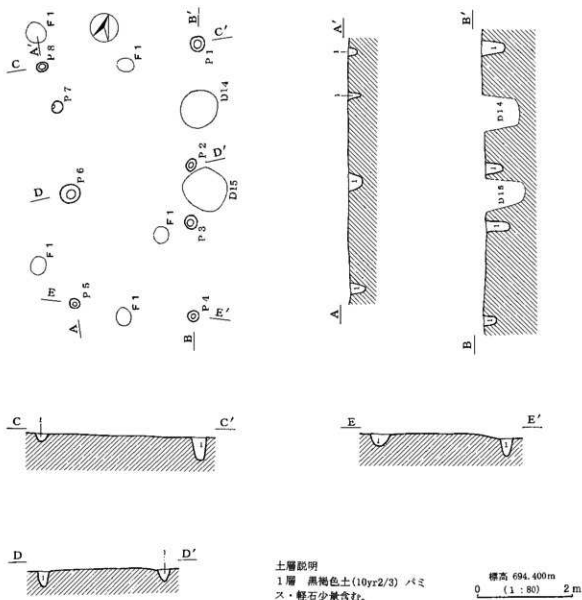
F 2号掘建柱建物址実測図

### F 3号掘建柱建物址

遺構は調査区西側の南、き-10グリッド付近に位置する。遺構の存在する周辺は、調査区域内の中でも、土坑、ピットなどの遺構が密集する地域に含まれる。確認されたピットは6個の側柱と推測できるが、これら6個のピットに囲まれた範囲内にはいくつかの単独ピットが存在することから、総柱の掘建柱建物址になる可能性も考えられる。ピットの規模はP 1-直径28cm、深さ52cm、P 2-直径28cm、深さ36cm、P 3-直径24cm、深さ51cm、P 4-直径25cm、深さ27cm、P 5-直径21cm、深さ33cm、P 6-直径42cm、深さ30cm、P 7-直径25cm、深さ28cm、P 8-直径26cm、深さ18cmを測る。ピットの覆土は、すべて同様の状況で地山に含まれるバミス、軽石を少量含む黒褐色土の単層である。平面形態は、規模の大小は認められるが、おおむね円形または楕円形である。

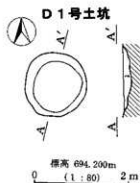
遺物は、P 3の覆土内から巻き貝の貝殻が出土した。(写真図版 参照)

時期については、周辺の遺構・遺物の状況から中世(室町・鎌倉)としたい。

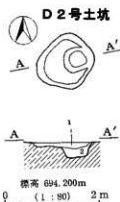


F 3号掘建柱建物址実測図

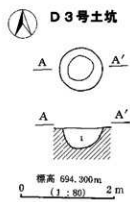
### 第3節 上坑 (D)



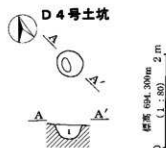
1層 黒褐色土(10yr2/3) バミス・1~5mm 径の軽石を少し含む。



1層 黒褐色土(10yr2/3) バミス・1~5mm 径の軽石を少し含む。  
2層 暗褐色土(10yr3/4) バミス・砂を少量含む。



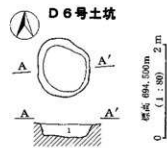
1層 暗褐色土(10yr2/3) バミス、軽石 少量含む。



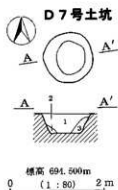
1層 ぶい黄褐色土(10yr4/3) バミス・礫・地山砂混入。



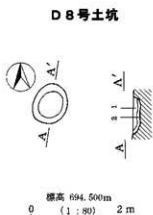
1層 暗褐色土(10yr3/3) バミス・地山砂多く含む。



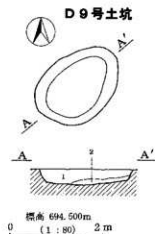
1層 暗褐色土(10yr3/3) ロームブロック・砂・バミスを含む。



1層 暗褐色土(10yr3/3) バミス・軽石混入含む。  
2層 暗褐色土(10yr3/3) 砂多く混入。  
3層 褐色土(10yr4/4) 地山砂・バミス含む。

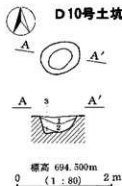


1層 暗褐色土(10yr3/3) バミス微量に含む。  
2層 ぶい黄褐色土(10yr4/3) 地山ローム多く含む。

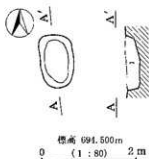


1層 暗褐色土(10yr3/4) バミス・1~5mm 径の軽石を含む。  
2層 褐色土(10yr4/4) 地山砂多く含む。

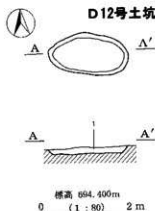
#### D 1~D 9号土坑実測図

**D10号土坑**

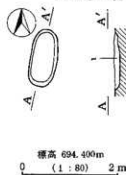
- 1層 黒褐色土(10yr2/3) バミスと炭灰を含む。  
2層 暗褐色土(10yr3/3) 地山砂ブロック混入。  
3層 褐色土(10yr4/4) 地山崩落層。

**D11号土坑**

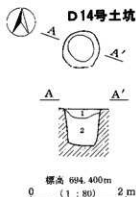
- 1層 暗褐色土(10yr3/3) バミス・軽石・礫・地山砂を多く含む。

**D12号土坑**

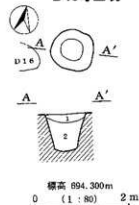
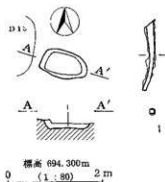
- 1層 暗褐色土(10yr3/3) バミス・軽石少量含む、地山ローンプロック散見含む。

**D13号土坑**

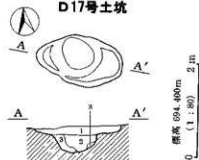
- 1層 暗褐色土(10yr3/3) バミス・1～5mm径の軽石を散見含む。

**D14号土坑**

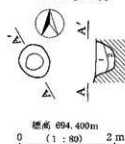
- 1層 黒褐色土(10yr2/3) 軽石・小礫・砂を含む。  
2層 暗褐色土(10yr3/4) 砂が層上方に堆積、しまり弱い。

**D15号土坑****D16号土坑**

- 1層 暗褐色土(10yr3/3) バミス多く含む。

**D17号土坑**

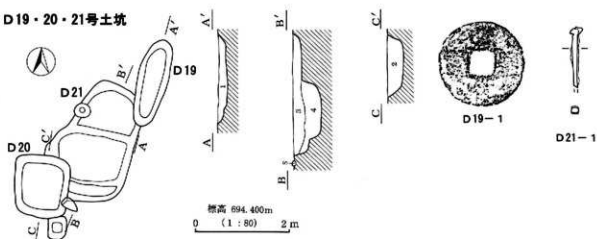
- 1層 暗褐色土(10yr3/3) バミス・1～5mm径の軽石を多く含む。  
2層 暗褐色土(10yr3/3) バミス・1～5mm径の軽石・地山砂を多く含む。  
3層 褐色土(10yr4/4) 軽石・地山砂混入、崩落層。

**D18号土坑**

- 1層 暗褐色土(10yr3/3) バミス・ローンプロック含む。  
2層 黒褐色土(10yr2/3) 地山砂多く含む。

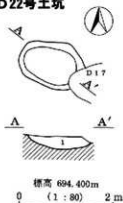
**D10～D18号土坑実測図**

### D19・20・21号土坑



- 1層 黒褐色土(10yr2/3) D19層土。パミス・軽石多く含む。しまりあり。  
 2層 暗褐色土(10yr3/3) D20層土。パミス・軽石多量に含む。  
 3層 暗褐色土(10yr3/3) D21層土。パミス多く含む。ロームブロックを少量含む。小礫含む。  
 4層 暗褐色土(10yr3/3) D21層土。地山砂多く混入。小礫含む。

### D22号土坑



- 1層 暗褐色土(10yr3/3) パミス、地山ロームブロック少量含む。

### D19～D22号土坑実測図

番号	器種	製品名	外形cm	内径cm	厚みcm	重量g	備考
D19-1	銅製品	古銭	-	-	0.12	0.49	文字不明・75%欠損
番号	器種	製品名	外形cm	内径cm	厚みcm	重量g	備考
D21-1	鉄製品	角釘	4.55	1.07	0.45	3.68	先端部欠損
番号	器種	製品名	外形cm	内径cm	厚みcm	重量g	備考
D19-1	銅製品	古銭	2.29	0.64	0.1	1.99	文字不明
番号	器種	製品名	外形cm	内径cm	厚みcm	重量g	備考
D16-1	鉄製品	角釘	6.22	1.2	0.7	6.55	頭・先端部欠損

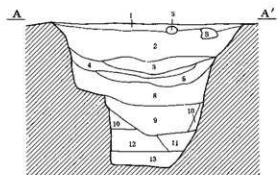
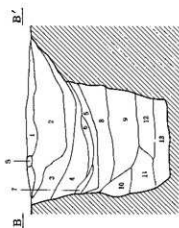
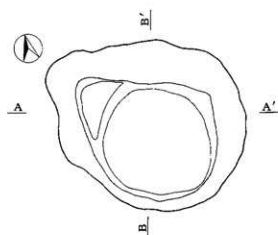
### 土坑出土遺物観察表

番号	遺構名	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形状	備考	番号	遺構名	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形状	備考
1	D1	1.4	1.32	0.16	円形	古銭片出土	12	D12	1.76	0.88	0.14	方形	
2	D2	1.3	1.2	0.34	円形		13	D13	1.2	0.56	0.12	楕円形	
3	D3	0.98	0.96	0.44	円形		14	D14	0.8	0.76	0.81	円形	
4	D4	0.56	0.52	0.35	円形		15	D15	0.88	0.86	0.81	円形	
5	D5	0.76	0.56	0.27	楕円形		16	D16	0.98	0.56	0.13	楕円形	鉄釘出土
6	D6	1.28	1.12	0.28	円形		17	D17	1.76	1.08	0.73	楕円形	
7	D7	1.04	1.02	0.42	円形		18	D18	0.62	0.6	0.44	円形	
8	D8	0.84	0.72	0.16	円形		19	D19	1.88	0.68	0.18	楕円形	古銭出土
9	D9	2	1.44	0.34	楕円形		20	D20	1.3	1.14	0.33	方形	
10	D10	0.8	0.68	0.41	楕円形		21	D21	2.6	1.6	0.92	不整形	角釘出土
11	D11	1.12	0.7	0.27	楕円形		22	D22	1.52	1	0.28	楕円形	

### 土坑観察表



#### 第4節 井戸跡



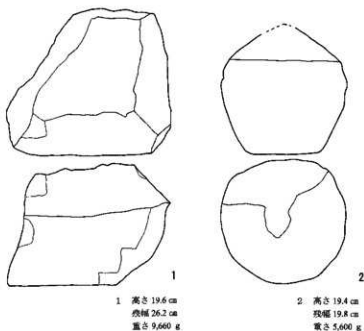
標高 694.200m  
0 (1:80) 2m

- 1層 黒褐色土(10yr2/3) 砂・軽石・小礫を含む。
- 2層 暗褐色土(10yr3/3) 砂質土含む。軽石・小礫を含む。しまりやあり。
- 3層 黒褐色土(10yr2/3) 砂質土含む。軽石・小礫を含む。
- 4層 褐色土(10yr4/4) 砂・ロームブロック・軽石を含む。
- 5層 暗褐色土(10yr3/3) 砂・小礫を多く含む。しまりなし。
- 6層 暗褐色土(10yr3/3) ロームブロック・軽石・礫混入。
- 7層 暗褐色土(10yr3/4) 砂・ロームブロック多量に混入。
- 8層 暗褐色土(10yr3/4) 砂多量を含む。小礫多く含む。
- 9層 暗褐色土(10yr3/3) ロームブロック含む。礫少量含む。
- 10層 にぶい黄褐色土(10yr4/3) 地山崩落層。
- 11層 暗褐色土(10yr3/4) 地山ローム・砂礫を混入。
- 12層 黄褐色土(10yr5/8) 砂層。しまりなし。
- 13層 暗褐色土(10yr3/4) 砂礫・地山ロームブロック混入。

遺構は調査区の東側おー4グリッド付近に位置する。規模は確認面での東西径4m、南北径3.6m、深さは最深部で確認面から3mを測る。形状は北西部分が僅かに張り出す不整形である。堀り込み状況は、確認面付近からややすり鉢状に傾斜し、西側の一部を除き、深さ80cm付近でやや傾斜角が急になり底面に至る。西側は、深さ1.4m地点に半円形のテラスが存在し、そこから、ほぼ垂直に近い角度で底面に至る。

遺物は埋め戻し時に投げ込まれたと考えられる五輪塔の一部が2個出土した。

時期は、五輪塔及び、周辺の遺跡の状況から、隣接する竪穴状遺構等の遺構とほぼ時期の等しい、中世(室町・鎌倉)としたい。



1 高さ19.6cm  
直径26.2cm  
重さ9,660g

2 高さ19.4cm  
直径19.8cm  
重さ5,600g

井戸跡・井戸跡出土五輪塔実測図

## 第5節 柱列

### 1号柱列

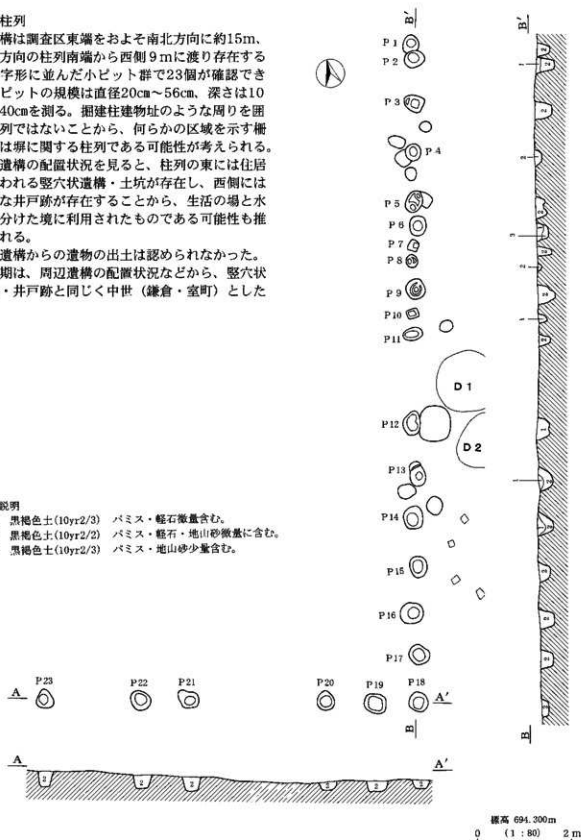
遺構は調査区東端をおよそ南北方向に約15m、南北方向の柱列南端から西側9mに渡り存在する逆し字形に並んだ小ピット群で23個が確認できた。ピットの規模は直径20cm～56cm、深さは10cm～40cmを測る。掘建柱建物址のような周りを囲む配列ではないことから、何らかの区域を示す柵列又は塀に関する柱列である可能性が考えられる。周辺遺構の配置状況を見ると、柱列の東には住居と思われる竪穴状遺構・土坑が存在し、西側には巨大な井戸跡が存在することから、生活の場と水場を分けた境に利用されたものである可能性も推察される。

本遺構からの遺物の出土は認められなかった。

時期は、周辺遺構の配置状況などから、竪穴状遺構・井戸跡と同じく中世（鎌倉・室町）とした。

#### 土層説明

- |    |               |                  |
|----|---------------|------------------|
| 1層 | 黒褐色土(10yr2/3) | パミス・軽石微量含む。      |
| 2層 | 黒褐色土(10yr2/2) | パミス・軽石・地山砂微量を含む。 |
| 3層 | 黒褐色土(10yr2/3) | パミス・地山砂少量含む。     |



1号柱列実測図

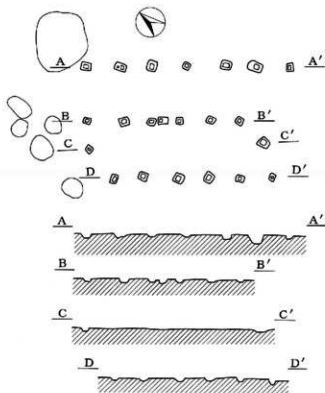
番号	遺構名	平面形	径(cm)	深さ(cm)	備考	番号	遺構名	平面形	径(cm)	深さ(cm)	備考
1	P 1	円形	40	28		13	P 1 3	隅丸長方形	56	30	
2	P 2	円形	39	39		14	P 1 4	隅丸長方形	52	36	
3	P 3	不整円形	36	37		15	P 1 5	円形	44	24	
4	P 4	円形	37	36		16	P 1 6	円形	42	32	
5	P 5	楕円	48	24		17	P 1 7	不整形	40	28	
6	P 6	円形	42	23		18	P 1 8	円形	41	28	
7	P 7	方形	24	25		19	P 1 9	隅丸長方形	43	18	
8	P 8	円形	25	30		20	P 2 0	円形	39	22	
9	P 9	隅丸方形	42	10		21	P 2 1	不整形	36	30	
10	P 1 0	方形	20	34		22	P 2 2	円形	42	28	
11	P 1 1	楕円形	40	22		23	P 2 3	不整円形	40	32	
12	P 1 2	不整形	52	28							

1号柱列ビット観察表

2号柱列

遺構は調査区の東、か-2グリッド付近に位置する。確認されたビット列は小ビットの3列で、22個が確認できた。規模は直径20cm、深さ20cm内外で、平面形態は方形である。ビット配置の平面状況が、整然と3列長方形を示すことから、遺構の性格は1号柱列の境界を示すものと異なり、建物址である可能性が考えられる。

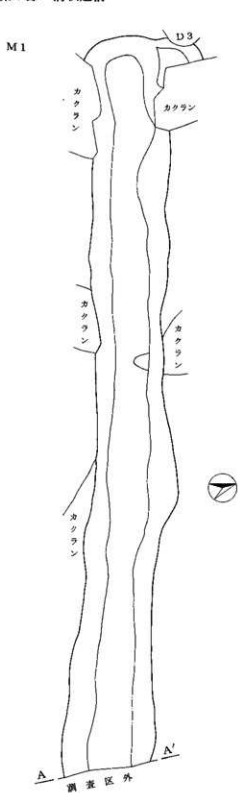
本遺構から遺物は出土しなかった。  
時期はビットの形状、周辺の状況から中世(鎌倉・室町)としたい。



標高 694.300m  
0 (1:80) 2m

2号柱列実測図

## 第6節 溝状遺構

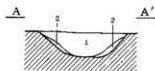


### M1号溝状遺構

遺構は調査区東側の南方に位置し、きー5グリッドからくー2グリッドにかけて存在する。東側に延びると考えられるが、調査区域外となる。規模は長さ15.2m、幅2.0m内外、深さ50cmを測る。溝の掘り込み状況は、掘り鉢状のやや緩やかな傾斜で底面にいたり、底には60cmから95cm幅の平らな部分が存在する断面台形状を示す。

遺物は出土しなかった。

時期は、周辺の状況から中世（鎌倉・室町）としたい。



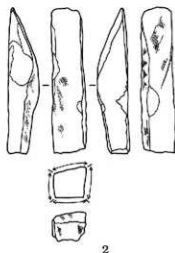
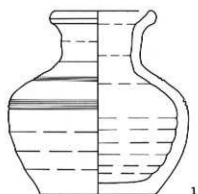
### 土層説明

- 1層 暗褐色土(10yr3/3) バミス・小礫を含む。  
 2層 褐色土(10yr4/4) ロームブロック多く含む。地山崩落層。

標高 694.300m  
 0 (1:80) 4m

M1号溝状遺構実測図

第7節 遺構外遺物



遺構外遺物実測図

番号	器種	器形	長さcm	幅cm	厚さcm	調整	備考
1	陶器	小型壺	5.6	6.2	9.8	ロクロ使用による沈線 薄い鉄軸 肩部付近へラ 底部回転糸切り後未調整	茶入れの可能性あり
番号	器種	器形	長さcm	幅cm	厚さcm	調整	備考
2	石製品	砥石	11.4	2.4	2.5	5面砥面	重量102.16g

遺構外遺物観察表



番屋前遺跡群 番屋前遺跡IV全景（東から）



Ta1号竪穴状遺構全景（東から）



Ta2号竪穴状遺構全景（北東から）



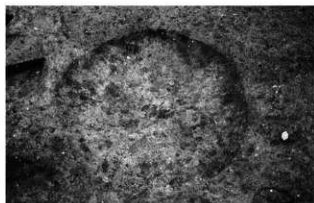
F1号掘建柱建物址、D12・17・22号土坑（東から）



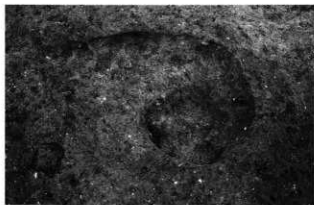
F2号掘建柱建物址全景（南から）



F3号掘建柱建物址全景（東から）



D1号土坑全景



D 2 号土坑全景



D 3 号土坑, M 1 号溝状遺構全景 (東から)



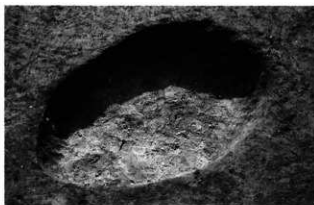
D 6 号土坑全景



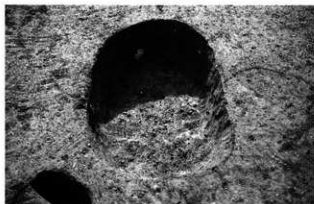
D 7 号土坑全景



D 8 号土坑全景



D 9 号土坑全景



D 11 号土坑全景



D 14・18・19・20・21 号土坑全景 (東から)





D13・15・16号土坑全景（東から）



井戸跡周辺全景（東から）



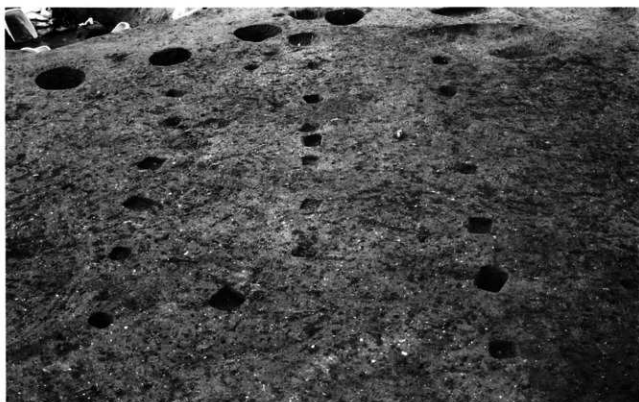
井戸跡調査状況



井戸跡全景



1号柱列全景（南から）



2号柱列全景（東から）



調査開始前全景（東から）



番屋前遺跡IV土層状況



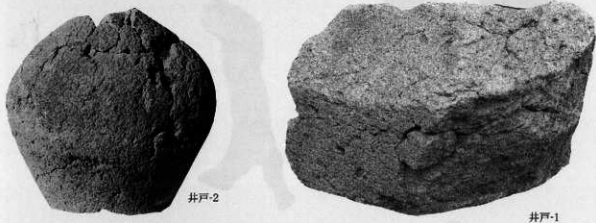
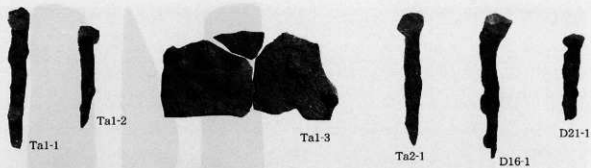
試掘調査状況（北から）



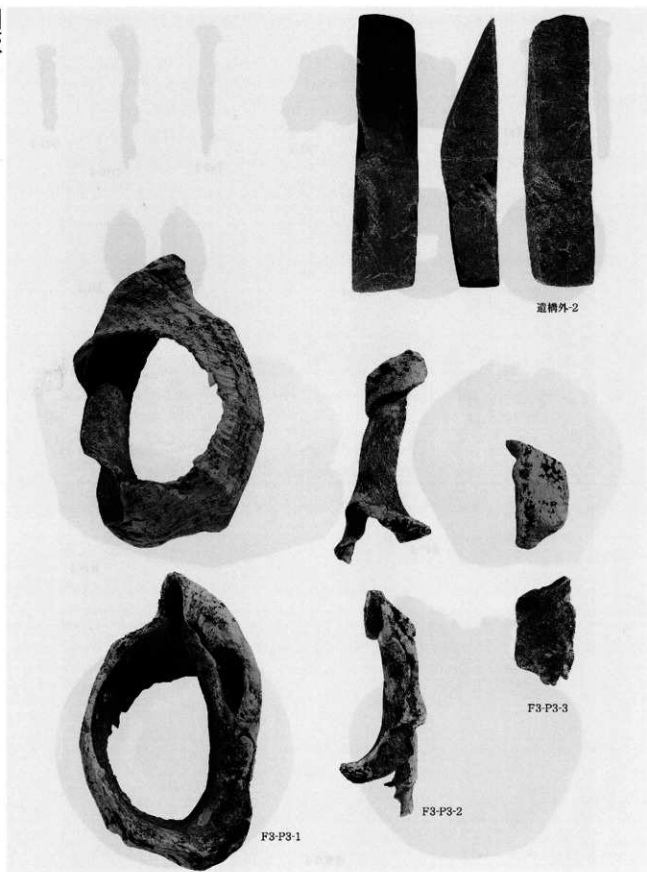
試掘調査遺構検出状況1



試掘調査遺構検出状況2（南から）



番屋前遺跡群 番屋前遺跡IV出土遺物



番屋前遺跡群 番屋前遺跡IV出土遺物

# 報告書抄録

書名	番屋前遺跡群 番屋前遺跡Ⅳ
ふりがな	ばんやまえいせきぐん ばんやまえいせきよん
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第194集
編著者名	出澤 力
編集・発行機関	佐久市教育委員会 社会教育部 文化財課
発行年月日	2011.3
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	番屋前遺跡群 番屋前遺跡Ⅳ
遺跡所在地	佐久市猿久保882-1
遺跡番号	佐久市 248
北緯	北緯36度15分23秒
東経	東経138度28分53秒
調査期間	平成 21(2009)年 11月 20日～平成 21(2009)年 12月 25日(現場) 平成 22(2010)年 6月 16日～平成 23(2011)年 3月 16日(整理作業)
調査面積	1,063 m <sup>2</sup>
調査原因	J A 佐久浅間本所建設工事
種別	散布地
主な時代	弥生・奈良・平安・中世
遺跡概要	集落址・中世-竪穴状遺構+掘立柱建物址+土坑+井戸跡+柱列+溝状遺構- 金属製品+石製品+古銭+陶器+巻貝
特記事項	調査によって、本調査地域は、中世を中心とする集落跡であることが確認でき、建物址と考えられる竪穴状遺構、土坑、生活には欠かせない水を供給する井戸跡などが発見された。

---

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第194集  
番屋前遺跡群 番屋前遺跡IV

編集・発行 長野県佐久市教育委員会  
長野県佐久市中込3056

文化財課  
長野県佐久市志賀5953  
電話 0267-68-7321

印刷所 キクハラインク有限公司

---

